



→渡し舟の行く江戸川にカモメが一羽やって来た。

←子どもたちはカエルやトカゲなどのフィギュアが好きだ。↓近寄る子どもは親たちに引き戻される。



穏やかな気候の年明けだった。天気予報では三月なみの気温だといったが、実際の三月はもつと暖かだったように記憶している。

記憶というものは、たいしてあてにはならないが、気象庁がそういうのだから事実なのだろう。

それはさておき正月三が日はさすがにお客さんも多かった。とりわけ目についたのが孫を連れてやって来た爺さん婆さんたちだった。

というか、とりわけ爺さん婆さんが目立った。というのも、ふつうだったら舟に乗るために列に並んで待つが、孫たちは列に並ぶよりも売店に並んでいるオモチャのほうに興味があるからちよつとでも目を離すと売店に走る。

一緒に来ている親たちは列に連れ戻すのに必死だ。たいていの親たちが、「あとでねッ」

そういつて売店から引き離す。

子どもたちが目をとめるのはどんなオモチャかというとかエルやトカゲなど動物のフィギュア（人形）だ。私から見ると、どうしてそんなものに人気

## 今週のクマ

→矢切の渡しにやって来てクマは、一日中お客さんたちを眺めてすごす。



→さわると壊れそうなロウバイの花が咲いている。年が明けた。春はもうそこまで来ている。



があるのか理解に苦しむが、子どもたちは真剣だ。目がらんらんと輝いている。

このオモチャはくじ引きになっていて一回が五十円。一〇〇円で三回引ける。

くじのカードを引いて張り合わせてある部分を開くと番号が書いてあるので、おなじ番号のところにあるフィギュアをもたえらえるというわけだ。

目的のフィギュアが当たらなくてあきらめる子もいるが、目的のフィギュアが当たるまで何度も挑戦する子もなかにはいる。このあたりは大人にも共通している。それで金をなくす。子どもは大人の鏡だというが、まさにそのとりだ。

それよりも興味深いのは、どうして子どもたちは両生類だとか爬虫類に興味を示すのだろうか。

日ごろ絵本や図鑑などでしか見たことがないはずなのにそれほど興味を示すのは、ひよっとしたら恐竜に興味を示す少年や大人たちに共通するものがあるのではないだろうか。あるいは、まだ見ぬ宇宙人に夢を抱くようなものなのかもしれない。いや、きっとそうなのだろう。現代の子どもたちは、カエルやトカゲなどを宇宙人のように思っているのかも…。